

踊り子行状記 (1955)

メディア 映画

ジャンル 時代劇

製作国 日本

色彩 B&W

初公開日 1955/06/26

【解説】

直木三十五の小説『踊り子行状記』を西条照太郎と犬塚稔が共同で脚色し、「鬼斬り若様」に続いて安田公義が監督した時代劇。大映の若手スターだった市川雷蔵、勝新太郎、山本富士子が初共演を果たした。

旗本の軽輩で仲の良い安堂左馬之助と武智十郎太は、剣の腕を見込まれ番士に抜擢され、上役の水城頼母の酒席に招かれた。その席に呼ばれていた売り出し中の踊り子、誰弥と団七は左馬之助に心惹かれる。だが自分だけ抜擢されなかった香車玄六は酒席で暴れ出し、腹に据えかねた十郎太に斬殺されてしまう。十郎太をかばい身代わりとなった左馬之助は大口屋暁雨のもとに身を隠すが、玄六の義兄で旗本一刀流の首領である渋川陣十郎はあらゆる手段を使い左馬之助探しに躍起になるのだった。

【クレジット】

監督 安田公義

製作 酒井箴

企画 高桑義生

原作 直木三十五

脚本 西条照太郎

犬塚稔

撮影 武田千吉郎

美術 上里義三

音楽 大久保徳二郎

出演 市川雷蔵 安堂左馬之助

山本富士子 踊り子誰弥

勝新太郎 武智十郎太

江島みどり

長谷川裕見子 踊り子団七

市川小太夫 大口屋暁雨

河野秋武 香東玄六